

令和元年9月2日  
 鹿児島地方気象台

## 令和元年の梅雨入り・明けに関するお知らせ

気象庁では、毎年、春から夏にかけての実際の天候経過を総合的に検討し、各地の梅雨入りと梅雨明けの確定及び梅雨時期の特徴のまとめを行っています。

令和元年の梅雨についてとりまとめた結果は以下のとおりです。

地域	梅雨入りと階級(注1)			梅雨明けと階級(注1)		
	事後検討	当初発表	平年	事後検討	当初発表	平年
奄美地方	5月14日ごろ(+)	5月14日ごろ	5月11日ごろ	7月13日ごろ(+)*	7月13日ごろ	6月29日ごろ
九州南部	5月31日ごろ(0)	5月31日ごろ	5月31日ごろ	7月24日ごろ(+)	7月24日ごろ	7月14日ごろ

地域	梅雨時期(奄美地方は5月～6月、九州南部は6月～7月)の降水量	
	地域平均降水量の平年比と階級(注2)	代表地点の降水量、カッコ内は平年値
奄美地方	154% (+)*	名瀬 956.0mm(668.8)
九州南部	140% (+)*	鹿児島 1259.0mm(771.2), 宮崎 1151.0mm(738.6)

(注1) 梅雨の入り・明けには平均的に5日間程度の遷移期間があり、その遷移期間のおおむね中日をもって「日ごろ」と表現した。記号の意味：(+)\*：かなり遅い、(+):遅い、(0):平年並、(-):早い、(-)\*：かなり早い、の階級区分を表す。

(注2) 記号の意味：(+)\*：かなり多い、(+):多い、(0):平年並、(-):少ない、(-)\*：かなり少ない、の階級区分を表す。

### 梅雨時期の概況

#### 奄美地方

5月中旬はじめまでは数日の周期で天気が変わりました。5月中旬中頃から終わりにかけては前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多くなりました。このため、5月14日ごろに梅雨入りとなりました。

6月下旬前半まで前線の影響で、曇りや雨の日が多くなりました。6月下旬後半から7月上旬はじめには前線が一時的に九州付近に北上し、晴れた日もありましたが、その後、再び前線は奄美付近へ南下し7月上旬終わりまでは、曇りや雨の日が続きました。7月の中旬には前線は九州付近から朝鮮半島付近まで北上し、奄美地方は太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多くなりました。このため、7月13日ごろに梅雨明けとなりました。

#### 九州南部

5月中旬は中頃にかけて晴れの日続きました。その後5月下旬は天気が短い周期で変わり、6月上旬の前半は曇りや雨の日が続きました。このため、5月31日ごろに梅雨入りとなりました。

7月下旬はじめまで前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、7月下旬中頃からは太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多くなりました。このため、7月24日ごろに梅雨明けとなりました。

なお、梅雨時期の降水量は、九州南部、奄美地方ともに「かなり多い」となりました。